

気候情報

2010年11月の日本の天候

- 東・西日本では半年ぶりに月平均気温が平年並に下がった
- 西日本では降水量が少なく日照時間が多かった
- 沖縄・奄美では日照時間が少なかった

11月の天気概況

中国大陸東岸から東シナ海付近で偏西風が南に蛇行し、東日本以西では10月までに比べて寒気の影響を受けやすく、月平均気温が平年並になった。東・西日本で月平均気温が平年並まで下がったのは、いずれも5月以来である。天気は、北～西日本ではおおむね数日の周期で変化した。北日本は冬型の気圧配置が持続することがなく、気温が高かった。移動性高気圧が本州付近を通過することが多かったため西日本と東日本太平洋側では日照時間が多く（西日本日本海側ではかなり多く）、西日本では降水量が少なかった（西日本日本海側ではかなり少なかった）。沖縄・奄美は移動性高気圧の南縁に位置することが多く、また、気圧の谷の通過時には低気圧や前線の影響を受けたため、晴れの日が少なかった。

上旬：北日本と東日本日本海側は低気圧や寒気の影響で曇りや雨の日が多かった一方、東日本太平洋側と西日本では晴れの日が多かった。また、沖縄・奄美は高気圧の南縁に位置することが多く、晴れの日が少なかった。旬のはじめと終わりにはこの時期としては比較的強い寒気が西日本以西を中心に流れ込んだため、東日本以西では気温が平年を下回り、沖縄・奄美ではかなり低かった。

中旬：本州付近を気圧の谷が3回通過し、北～西日本では周期的に天気が変化した。ただし、気圧の谷に伴う低気圧の発達程度はいずれも弱く、北～西日本では降水量が少なかった。一方、沖縄・奄美は上旬に続いておおむね高気圧の南縁に位置したため曇りの日が多く、前線の影響でまとまった雨が降った日もあった。なお12～13日には、中国大陸で発達した低気圧により上空に巻き上げられた砂塵が偏西風に乗って日本にも運ばれたため、西～東日本を中心とした広い範囲で黄砂を観測した。黄砂の観測は西日本では11月としては5年ぶり、東京都心では11～12月としては28年ぶりであった。

下旬：日本付近では高・低気圧の移動が順調で、全国的に2～4日の周期で天気が変化した。気圧の谷の通過後は寒気の流れ込むこともあったが、一時的だった。

11月の気候統計

月平均気温：北日本で高かった。東日本、西日本および沖縄・奄美では平年並だった。

月降水量：北日本日本海側で多かった。一方、西日本日本海側ではかなり少なく、西日本太平洋側では少なかった。西日本では平年の40%を下回ったところがあった。北日本太平洋側、東日本、および沖縄・奄美では平年並だった。

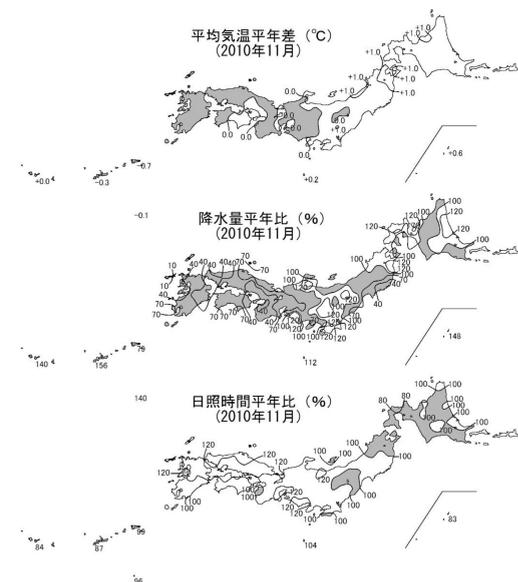
月間日照時間：西日本日本海側でかなり多く、東日本から西日本にかけての太平洋側で多かった。一方、沖縄・奄美では少なく、北日本と東日本日本海側では平年並だった。

(気象庁観測部統計室)

11月の記録（1位更新のみ）

- ・月間日照時間多い方から（時間）
豊岡 110.6

2010年11月の平年差（比）図



注) 陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す。